

誰も置き去りにしない、
生き抜く力にあふれた
子どもたちを育むために



未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

ホームページで「講演動画」公開中!

ニッケ教育研究所 ビデオギャラリー

特別
講演

「第2弾 親子のふれ合いを通して深める学び」

講師 森川 正樹 先生 《関西学院初等部 教諭》



笑顔で明るくて、子どもたちが話しかけやすい! 大人たちがそんな存在になり、環境をつくるのが大切です。会話やふれ合いを通して子どもたちと一緒に学び、互いに深めていくことの素晴らしさを実感できるお話です。

スマホから、ご視聴いただけます

身近な教育の話題をとりあげた「コラム」も随時更新しています。ホームページを是非ご覧ください!

詳しい内容はこちらから
<https://nikke-edu.org/>



一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけますか? 子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

編集後記

4月になり、子どもたちにとって新たな1年がスタートしました。コロナ禍は2年が経過し、これまで誰もが経験したことのない環境が続いています。このような環境の中、教育現場や家庭では子どもたちの学びを止めないための創意工夫がされていると同時に、子どもたちも精いっぱいこの環境に立ち向かっています。

現在、コロナ禍だけではなく、持続可能な社会への取組(SDGs)やデジタル社会への急速な移行など私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。これから子どもたちが学んでいくことは大人たちも経験したことのないことですので、「教える」から「共に学ぶ」という子どもたちへの接し方が大切だと感じます。子どもたちが自ら課題を見つけ、考え、行動していくために、学校・家庭・地域がその支えとなっていきたいと思います。

一般社団法人ニッケ教育研究所
理事長 楠本 景央



2022 春号(年4回発行) No.9
2022年4月20日 発行
本誌掲載の記事は、複写・複製・転載を禁じます。

《発行》一般社団法人ニッケ教育研究所
〒541-0048 大阪市中央区瓦町3丁目3-10
TEL: 06-6205-6665 <https://nikke-edu.org/>

特集

私がつくる子どもの笑顔 第5回

子どもの“楽しさ”“おもしろさ”
“秘めた力のスバラシさ”

連載コラム 第1回

学校グランドデザイン

— 家庭と地域をつなぐ学校づくり —

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ



※写真は、国営滝野すずらん丘陵公園です

私がつくる 子どもの笑顔

子どもたちの元気な声や輝く笑顔にあふれた学校をめざして、現場ではさまざまな創意工夫が行われています。「私がつくる 子どもの笑顔」では、現職の校長先生に学校づくりの考え方や具体例を紹介していただき、子どもたちを育む学校環境についての意識を深めていきます。
第5回は、大阪市立豊崎本庄小学校の西浦博久校長です。

第5回 子どもの“楽しさ”“おもしろさ” “秘めた力のスバラシさ”

《大阪市立豊崎本庄小学校》 にしうら ひろひさ 西浦 博久 校長



私が教員になりたての頃、同僚に誘われて参加した研究会で大阪幼少年教育研究所所長の石田 光先生と出会い、「子どもの楽しさおもしろさ秘めた力のスバラシさ」を見失うなと教えていただきました。それからさまざまな教育実践に巡り合い、子ども観、教育観、学校観を作り上げました。そして今、自分の理想とする学校づくりをしたいと考えています。

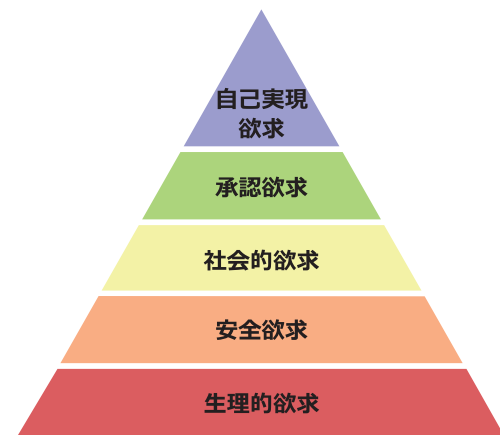
子どものための学校 ～教師自身が最高の教育環境に～

子どもたちには学校生活を通して自分なりに物事を判断し、その時々課題を解決しながら成長し続け、自分の人生を切り拓いていく力を身につけてもらいたいと考えています。そのために、一人一人の子どもに目を向けた教育を展開していきたいと考えています。

子どものための学校、子どもが学びたいと思える学校にしていきたい……。そして、教職員も子どものためにアイデアを生かした仕事ができる学校……。教師自身が、子どもにとって最高の教育環境になれる学校……。そんな、子どものための学校にしていきたいと考えながら、学校運営に取り組んでいます。

子どものやる気スイッチを入れる

私はこれまでたくさんの子と接する中で、家庭や学校を安全基地だと思える子どもには、もっと学びたいという意欲が湧いてくるのを見ました。そこで新1年生の学校説明会では、「子どものやる気スイッチを入れてください」「子どもの可能性を家庭と学校で伸ばしていきましょう」ということをお伝えするために、「マズローの欲求5段階説」(注1)を使って話をしています。



マズローの欲求5段階説

(注1) アメリカの心理学者マズロー(1908-1970)によって提唱されたモチベーション理論。

生理的欲求

子どもの「寝たい」「食いたい」など、生きるための欲求です。

安全欲求

安全・安心な生活を求めています。家庭生活や学校生活の中で、安心して生活することが大切になります。

社会的欲求

家庭や学級の中で、自分の存在が認められているという満足感を得たい欲求です。

承認欲求

家庭や学級の中で安心して生活していると、子どもは自分の頑張っていることを認めてもらいたいと思います。そして、自分のできることをアピールできます。

—— ひらがなが書けるようになったよ。

—— 逆上がりができるねん。

その時々さかさか、「すごいね。そんなことができるようになってんね」と褒めていきます。

自己実現欲求

すると、子どもは自ら進んで、もっと褒められたいという思いで【やる気スイッチ】が入り、自分のもつ能力や可能性を最大限に伸ばしていきます。

校長室で行う九九名人テスト

2年生の算数において、九九はきちんと身につけてもらいたい単元です。そこで、校長室で答えから九九を導き出す最終テストを行っています。子どもたちは教室で毎日のように九九のテストを重ねていますが、「ラスボスの校長先生に挑戦する!」と意欲を持って臨んでいます。すべての九九テストをクリアしたら、いよいよ最終テストです。校長室という非日常的な場所で受けるテストは、子どもたちにとっても特別なものになっているようです。緊張の中、無事合格して【九九名人認定証】を手にした子どもたちは、心から喜んで教室に帰っていきます。



児童朝会からのインプット/アウトプット

児童朝会での校長の話を、子どもたちは、教室に戻り80字程度に要約した文章を書きます。季節の話や社会での出来事、時には子どもたちが頑張っている話など、校長から聞いた話を頭の中にインプットします。インプットした話を、校長が話した順番に書いたり、要約して書いたり、聞いた話から自分の考えを書いたりしてアウトプットしていきます。このようなことを通して、子どもの聞く力と書く力を伸ばしたいと考えています。



子どもの主体的な学び

校長として最も力を入れているのが学習指導です。環境や経験の違いにより、事象に対して表れる反応は子どもによってまさに個性的であり、そのために個別最適化された学びが必要になってきます。

学習における個性は、「学力」(到達度)の違い、問題を解決する「学習時間」の違い、「学習スタイル」(学習適正)の違い、興味・関心の違い、生活経験の違いなどと捉えています。そこに必要となる『指導の個別化』では、すべての子どもに共通の基礎学力の習得を等しく着実に保障するために、一人一人に最適化された指導方法、学習時間、教材等の豊かで柔軟な提供を進めていくことをねらっています。

学習における個性の伸長には、自ら学習課題を見つけ、自らの方法で追究していくことも大切です。その例として、「総合的な学習の時間」などが挙げられます。また、長期休業中の課題として出される自由研究学習も、子どもの興味や関心に応じて、

ポストコロナを見据えた学び

新型コロナウイルス感染症の拡大で感じたことは、学校が臨時休校になっても自分でめあてを決め、自分で学習を進めることができる子どもになってほしいということです。これからも、学校では学習の仕方を学び、家庭では自分の力で学び続けることができる子どもを育てていきたいです。

新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、思うような教育

おわりに

ポストコロナでは、もっともっと子どもに寄り添った教育を進めていきます。マスクのない満面の笑みで、子どもをハイタッチで校門

自分で計画して進める学習の個別化と考えられるものです。

子どもが家庭学習において、自分で課題を見つけ、自分で問題を探究していく「自主学习」では、自分に合わせた教材や学習時間を使います。自分でめあてを決め、自分の好きな方法で調べ、まとめていきます。また、「一人一台端末」を文房具のように使いこなし、調べたいことを検索し、情報収集手段として動画も活用します。学習したことを家庭でゆっくり振り返り、自己内対話で学びを深めていきます。

—— バッタの足はむねから出てるんや。他の昆虫はどうかなあ。昆虫といわれるものは、全てむねから足が出るのがわかった。

—— あれ、足の形は昆虫によって違う。どうしてだろう。自分自身の言葉で自分の知識や経験、疑問、気づき等を関連づけ、自己内対話をしながら自分の考えを振り返ることで、子どもは思考を再構築していきます。

活動は実施できない状況ですが、一方でオンライン授業の整備が進み、登校しづらかったり、集団活動が苦手だったりする子どもたちへの学びの保障という面で一步前進したとも言えます。学校と家庭を意識しながら、対面授業とオンライン授業それぞれの特性を活かすにはどうすれば良いのかを検討する中で、ハイブリッド型の学校のあり方を考えていきたいです。

から送り出す日が、一日も早く来ることを願ってやみません。